

第4回 大分川・大野川学識者懇談会 議事概要

平成26年11月4日(火) 14:00~15:20

大分河川国道事務所 別館第1、第2会議室

【出席者】

中野委員長、飯沼委員、川野委員、佐藤委員、島田委員、東野委員、
本谷委員、吉田委員

【大野川水系河川整備計画の変更について】◆：委員、●事務局

- ◆ 大野川流域懇談会の今後について、事務局の考えを教えてください。
 - これまでと同様に川づくりのあり方について意見交換をしていきたいと考えている。

- ◆ 住民意見の中の無回答2件とは何か説明してほしい。
 - アンケートへの回答はあったが、整備計画変更原案に対する意見の欄に記載がない回答が2件あった。

- ◆ イワメという魚の名前を初めて聞いたが、有名なのか。
 - アマゴの突然変異と言われている。詳細については、後日情報提供したい。

【大野川水系河川整備計画の事業評価について】

- ◆ P3の大野川流域懇談会の写真は古いので差し替えていただきたい。
 - 違う写真に差し替えたい。

- ◆ P8の浸水区域図は、11,000 m³/s 流下時にどこかの地点で破堤することを想定しているのか。
 - 現時点の河道に対し、11,000m³/s を流下させた場合に計画高水位を超えた地点で破堤した場合の図を示している。破堤地点は、各ブロックに対し、最も浸水エリアが大きくなる箇所を選定している。

- ◆ 堤防決壊時の余裕高を見込まない理由を教えてください。
 - 計画高水位を超えると、堤防の機能が急激に弱体化することから、見込んでいない。

- ◆ 将来的には 1/100 を目指すことでいいのか。
 - 整備計画完了後、時間は要するが 1/100 への対応を進めて行くことになる。また、それとは別に、整備計画では、計画規模を超える洪水についてもハード・ソフトを含め検討をしていくこととしており、今後検討していきたいと考えている。

- ◆ 大分川の整備目標 1/70 に対し、大野川の整備目標 1/40 はギャップを感じる。今後、安全度を上げるステップはどのように考えているか。
 - 近年で最も大きい洪水である平成 5 年洪水規模を整備目標としている。事業の進捗状況や今後、整備目標を超えるような洪水が発生した場合には、整備目標や整備内容を検討していくことになる。

- ◆ 整備目標規模以上の洪水が発生することも想定されるが、そのような場合に遊水地や放水路等の治水対策は考えられないのか。また、災害が起こってから対策することがいつも問題になるので、できるだけ災害を起りにくくするために、総合的な対策を広い視点で考えていく必要がある。
 - 整備計画については、現況の河道で整備目標流量に対応できるものとしているが、河川整備基本方針の目標に向けた調査や検討をしていく上で河道での対応が困難な場合、ダム、遊水地、放水路等の対策も含め議論して進めていくことになる。
また、計画規模を超える洪水についても、ハード・ソフトを含め検討をしていくこととしており、今年から議論を始めている。

- ◆ 他水系では、ハード・ソフトの対策が進められ、住民の皆さんに避難勧告・指示を行うようにしているが、そのタイミングをどのようにするかなどは整備計画に書かれてはいないのか。
 - 洪水予報や水防警報及び河川情報の提供、さらに危機管理について整備計画本文に記載をしているところであり、自治体にどのような情報を提供するかということなどタイムラインを含めて自治体と検討を進めているところである。

- ◆ 事業評価については、了承された。